

男性の家事・育児，夫婦間の家事分担，仕事と家族のテーマを扱うものでは，夫の働き方・就業環境と家事分担—社研パネル調査データから（不破麻紀子），男性の家事分担の変化—NFRJを用いた時点間比較（乾順子），男性の育児遂行の規定要因再考—資源としての職場環境，男性の家事・育児参加と生育歴との関係—日米比較を通して（林葉子），父親の育児・家事参加における妻のマトーナール・ゲートキーピングと父親の就労意識との関連—日米比較を通じて（中川まり），アジア3カ国における家族政策関連制度利用の規定要因（小島宏），夫婦の就業形態と消費の関係—共働き化が家計に与える影響についての考察（山田昌弘），定年退職と家事分担（竹内麻貴）の7報告，親と子・世代間関係に関するものでは，親子の私的移転からみる階層格差（白波瀬佐和子），同居母子世帯出現率の地域的差異—もうひとつの家族の地域性（稲葉昭英），親の子どもに対する関わり方の経年的変化と規定要因（苫米地なつ帆・三浦哲）の3報告，結婚・家族形成に関するものでは，配偶者選択過程における愛情と選択性—北京の中年期男女に対するインタビュー調査をもとに（于建明），Diversity of Gender Preference for Children in Asia（殷棋洙），フェミニストアプローチによる現代日本の結婚への一考察（Cuervo Giraldo Norma）の3報告である。（釜野さおり記）

## 特別講演会

### ラウンドテーブル・セミナー「世界の人口高齢化」

2012年10月2日（火）午後，当研究所にて，世界の人口高齢化に関する特別講演会（ラウンドテーブル・セミナー）がUNFPA，ジョイセフ，当研究所の共催で行われた。これは前日，「国際高齢者デー」に当たる2012年10月1日に行われたUNFPA世界の人口高齢化に関する報告書リリース記念シンポジウムに続いて行われたものである。西村周三社人研所長の歓迎挨拶に答え，UNFPA事務局長ババトウンデ・オショティメイン氏が，世界の人口高齢化はまずは祝福すべきことであること，今後各国が人口高齢化対策の能力強化を行っていくうえで，UNFPAは南北，南々のコラボレーションを促進する役目を果たしていくとの挨拶をされた。

ラウンドテーブルでは，まず中国人民大学老年学研究所教授の杜鵬氏が，中国の人口高齢化を2010年の中国人口普查（国勢調査）の結果に基づいて，中国の高齢化は大都市ではなく人口転出が続く農村部を抱える省（地方行政区）で激しいこと，年金や最低生活保証金といった社会保障は拡充してきていること，高齢者の教育水準が上昇してきていることなど，10の特徴を解説された。次に「日本の人口高齢化推移と長寿化について」と題して当研究所人口動向研究部長石井太氏が，「社会保障政策における日本の特色」を当研究所社会保障基礎理論研究部長金子能宏氏が，日本の人口高齢化についてそれぞれ人口，社会保障の側面から概説した。韓国の人口高齢化についてはソウル大学校教授であり韓国人口学会会長でもあるリー・スンウク（李承旭）氏が，韓国の出生率・死亡率の推移を概説し，韓国の急激な人口高齢化は時限爆弾のようなものだとしながら，中高年女性支援，心理側面も含めた高齢化対策について説明された。次に，日本大学人口問題研究所所長である小川直宏氏は，アジアの国民世代間移転勘定（NTA：National Transfer Accounts）について概説された。

UNFPAからは，本部（N.Y.）技術顧問であるアン・パウリツコ氏，アジア太平洋地域事務所長の堀部伸子氏がUNFPAの世界の人口高齢化に対するこれまでの活動と今後の進展について述べられた。最後に，人口高齢化に取り組んでいる，世界でも数少ないNGOである，ヘルプ・エイジインターナショナルの代表であるリチャード・ブレウィット氏が，今後世界の人口高齢化対策に対する日本のリーダーシップを期待すると締めくくった。

質疑の時間は限られていたが，2010年中国人口普查結果で合計特殊出生率が1.18であることに関し

て、今後中国のより急速な高齢化が予測されていることや、脱医療化・在宅ケアをどのように行っていくか、女性高齢者の貧困に対する対応をどうするのか、高齢の路上生活者、外国の高齢者ケアのために出て行く移民が自分の高齢両親をケアできない現状について等、世界の高齢化問題に対する多様な要素が議論された。最後に現在ジョイセフ会長である明石康氏が、今後世界の高齢化は発展途上国でより重篤となることを認識し、各国が協力して取り組んでいくことの重要性を強調して、閉会の挨拶とされた。  
(林 玲子記)

## 2012年日本地理学会秋季学術大会

2012年日本地理学会秋季学術大会は、2012年10月6日～9日（8・9日は巡検のみ）、神戸大学（兵庫県神戸市）において開催された。一般発表89件、ポスター発表41件が行われた。この他に45件の発表からなる8つのシンポジウム、2件の講演からなる1つの公開講座と15の研究例会が開かれた。以下に主な人口関連の口頭発表とポスター発表を記す。

人口関連の発表の多くは人口変化に伴う地域の変容を扱っており、大都市圏を対象とするものが多く見られた。このことは農村部に限らず大都市圏でも人口減少下の諸問題に直面しつつあることを示すものであるといえよう。

「首都圏におけるニューファミリー層の居住地選択選好—コーホートの視点で—」

.....佐藤 将（横浜市立大学・院生）  
後藤 寛（横浜市立大学）

「配偶関係と還流移動—兵庫県多可町加美区の調査を例に—」

.....貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

「地方都市における人口の集中分散に関する経年変化分析—北海道を例として—」

.....小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

「神戸市のニュータウンにおける居住者移動」.....藤森衣子（大阪大学・院生）

「東京大都市圏における中古集合住宅の取得者と住居移動」.....佐藤英人（帝京大学）  
清水千弘（麗澤大学）

「地方都市の郊外住宅団地における空き家の発生」.....由井義通（広島大学）

阪上弘彬（広島大学・院生）

杉谷真理子（広島大学・院生）

森 玲薫（広島大学・院生）

久保倫子（学振特別研究員）

「2010年都道府県別75～84歳，85～94歳死亡率の季節変化」.....北島晴美（信州大学）

太田節子（信州医療福祉専門学校）

「群馬県中之条町六合地区における人口変化の地域的特色」.....関戸明子（群馬大学）

「脱成長時代における東京大都市圏の空間構造の変容」.....小泉 諒（首都大学・院生）

「人口と通勤流動の変化からみた京阪神大都市圏の空間構造の変化」.....山神達也（和歌山大学）

藤井 正（鳥取大学）

「2000年代の東京都心部における人口増加の特徴—国勢調査小地域集計データの分析—」

.....矢部直人（上越教育大学）

「大都市圏郊外における高齢化の進展と地域整備の課題」.....宮澤 仁（お茶の水女子大学）